

対人関係でのストレスを画像化することに成功！

計画班員の飯高哲也准教授（名古屋大学 大学院医学系研究科）らが行った、他人から罵声を浴びせられている時の脳反応をとらえた研究が発表されます。

Transient neural activation in human amygdala involved in aversive conditioning of face and voice. Tetsuya Iidaka, Daisuke N. Saito, Hidetsugu Komeda, Yoko Mano, Noriaki Kanayama, Takahiro Osumi, Norio Ozaki, Norihiro Sadato
Journal of Cognitive Neuroscience (in press)

この研究ではファンクショナル MRI と嫌悪条件づけ課題を健常被験者に応用し、対人関係でのストレスが脳にどのような反応を起こしているかを調べるために行われました。被験者は画面に映る男性から、「ばかやろう」という不快な声を何回も聞かされます。次第にこの男性の顔を見るだけで自律神経系の過活動が生じることが、皮膚電気反応の結果で分かりました。さらにファンクショナル MRI の結果では、側頭葉にある扁桃体という領域の活動が不快な声と顔の情報を統合する役割を果たしていることが分かりました。この実験結果はわれわれが日常生活で受ける心理社会的ストレスの神経基盤を解明し、将来的にはストレスに対する効果的な対処法を探る基礎的なデータになります。